

## 第 2 章

# 子どもの気持ち

---

この章では「三重県子ども条例に基づく調査」の結果を中心に、子どもの自己肯定感や規範意識、つらい気持ちになったときの状況などをみます。

自分のことが好きな子どもの割合は、小学生で約7割、中学生、高校生で5割以上となっており、高校生は増加傾向にあります。また、新しいことにチャレンジすることが好きな小学生、夢や将来の希望がある小学生は8割以上となっていますが、中学生、高校生と上がるにつれて、その割合は減少しています。自分のことが好きな子どもは、好きではない子どもより、新しいことにチャレンジすることが好き、夢や将来の希望がある割合が高くなっています。

いじめがいけないことだと思っている子どもは増加傾向にあり、9割以上と高くなっています。また、人の役に立つ人間になりたいと思っている子どもも9割以上と高くなっており、高い規範意識がうかがえます。

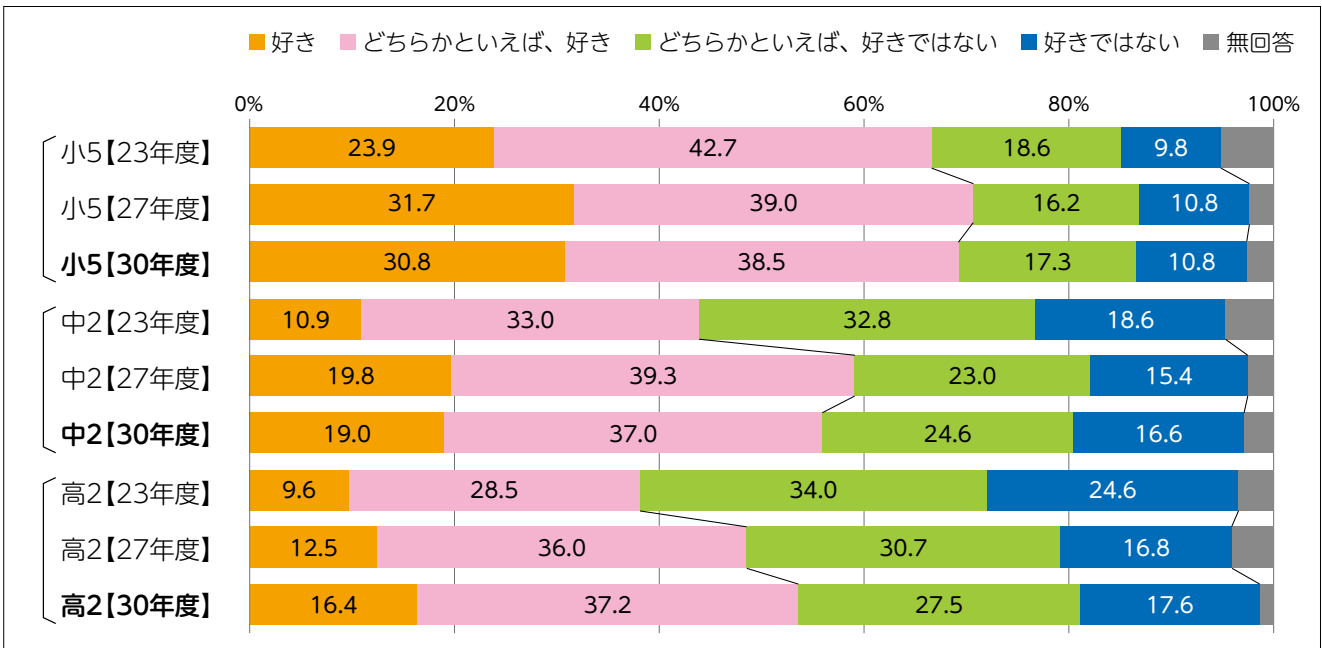
子どもがつらい気持ちになるときについて、小学生は「友だちと仲良くできないとき」、中学生、高校生は「テストの点や成績が悪いとき」が最も高くなっています。つらい気持ちになったときの対応として、「誰かに相談する」の割合が増加し、最も高くなっています。相談相手は、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて「親（保護者）」の割合が減少し、「友だち」の割合が増加しています。

# 1 子どもの自己肯定感

## ●自分のことが好きな子どもの割合は、子どもが「自分のことを好きだと思っている」と思う保護者の割合より低い。

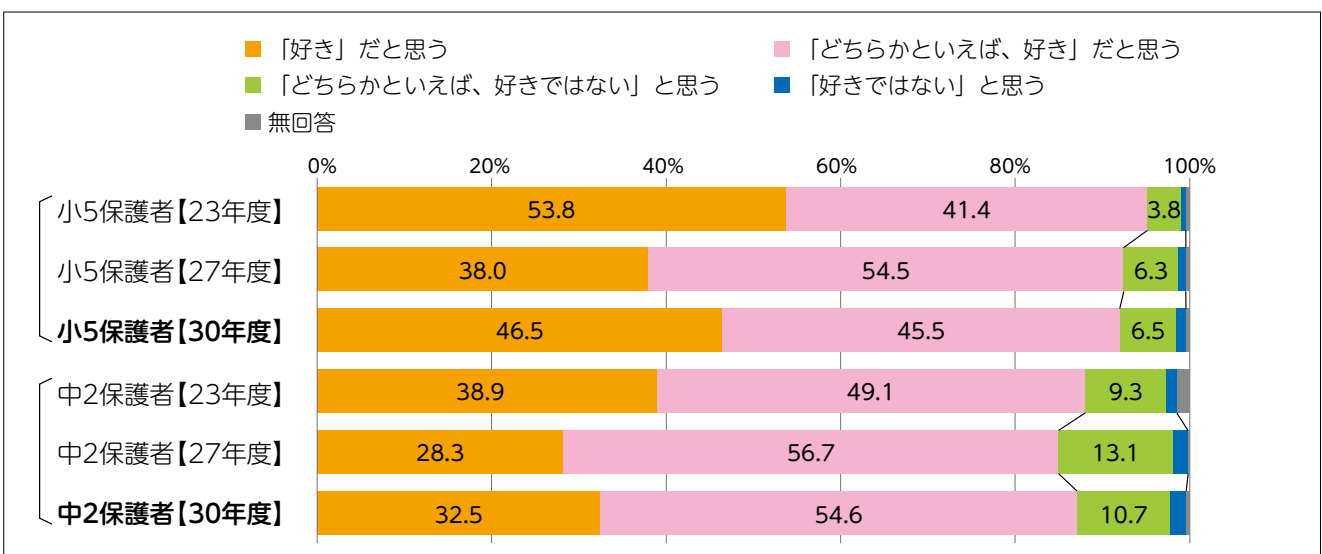
自分のことが好きかについて、「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた小学生は69.3%、中学生は56.0%、高校生は53.6%となっており、高校生は増加傾向にあります。一方で、子どもが「自分のことを好きだと思っている」と思うかについて、『「好き」だと思う』『「どちらかといえば、好き」だと思う』と答えた小学生の保護者は92.0%、中学生の保護者は87.1%となっており、子どもよりそれぞれ22.7ポイント、31.1ポイント高くなっています。

■ 図 2-1 あなたは、自分のことが好きですか



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

■ 図 2-2 あなたのお子さまは、「自分のことが好きだと思っている」と思いますか



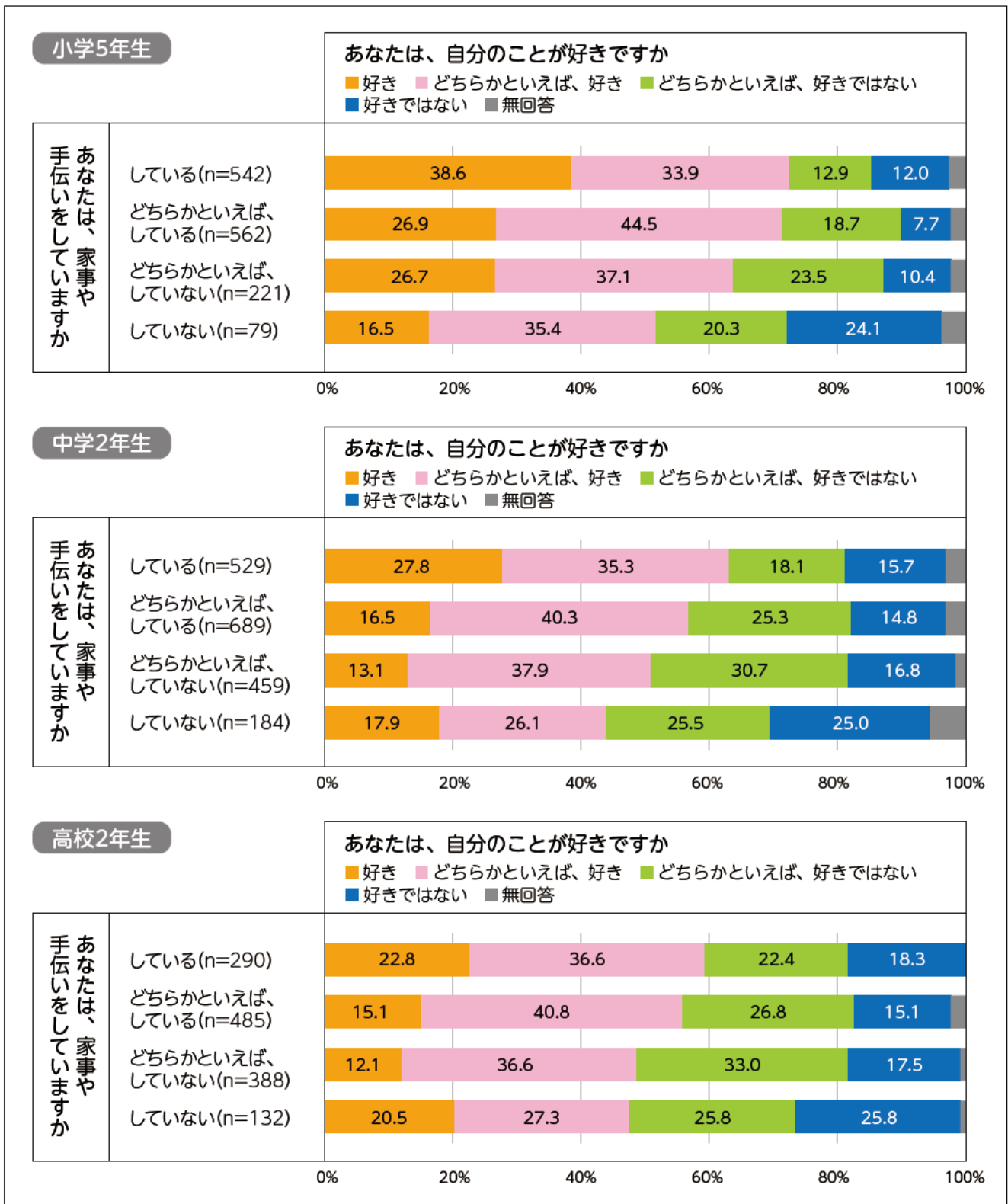
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・保護者調査」

●家事や手伝いをしている子どもは、していない子どもより自分のことが好きな割合が高い。

「家事や手伝いをしている」と「自分のことが好き」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに家事や手伝いを「している」と答えた子どもは「していない」と答えた子どもより、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた割合が高くなっています。

小学生と中学生では、家事や手伝いを「している」と答えた子どもは「していない」と答えた子どもより、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた割合が約20ポイント高くなっていますが、高校生では約10ポイントとなっており、その差が小さくなっています。

■ 図2-3 「家事や手伝いをしている」と「自分のことが好き」の関係

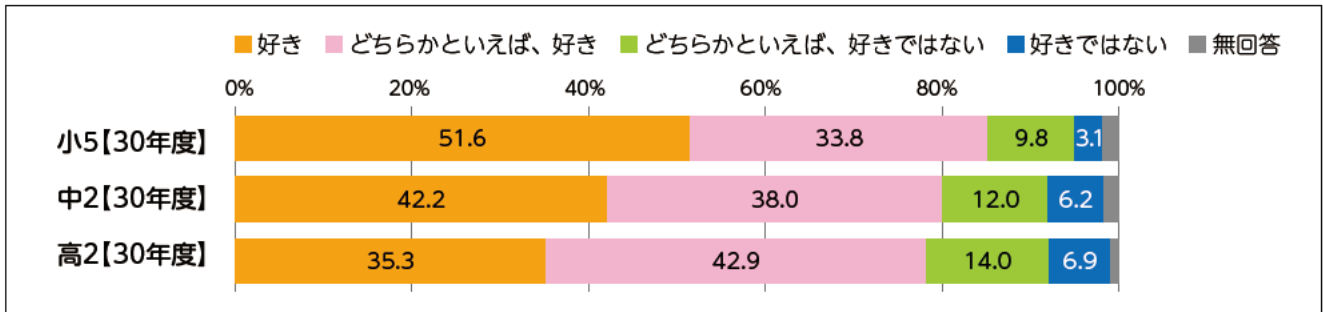


資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●新しいことにチャレンジすることが好きな子どもは小学生、中学生、高校生と上がるにつれて減少。

新しいことにチャレンジすることについて「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた小学生は85.4%、中学生は80.2%、高校生は78.2%となっています。小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、「好き」の割合は減少しています。

■ 図 2-4 新しいことにチャレンジすることは好きですか



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●自分のことが好きな子どもは、好きではない子どもより新しいことにチャレンジすることが好きな割合が高い。

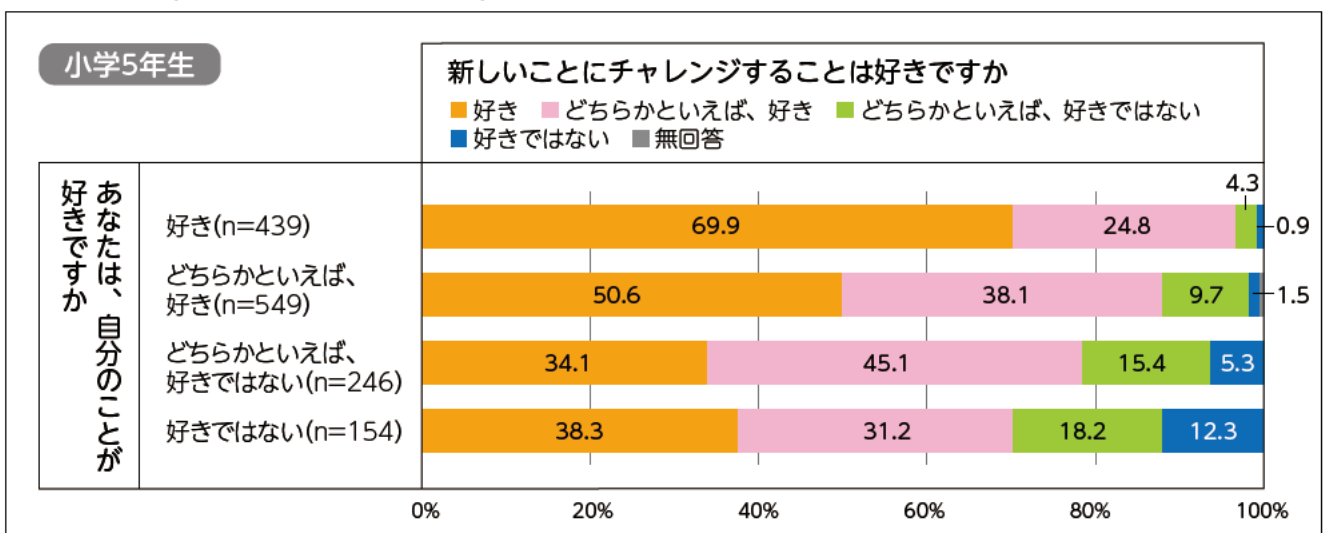
「自分のことが好き」と「新しいことにチャレンジすること」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに自分のことが「好き」と答えた子どもは「好きではない」と答えた子どもより、新しいことにチャレンジすることが「好き」「どちらかといえば、好き」の割合が高くなっています。

自分のことが「好き」と答えた小学生は、新しいことにチャレンジすることが「好き」と答えた割合が69.9%となっているのに対し、自分のことが「好きではない」と答えた小学生では38.3%で31.6ポイント低くなっています。

同様に自分のことが「好き」と答えた中学生は、新しいことにチャレンジすることが「好き」と答えた割合が69.9%となっているのに対し、自分のことが「好きではない」と答えた中学生では23.5%で46.4ポイント低くなっています。自分のことが「好き」と答えた高校生は、新しいことにチャレンジすることが「好き」と答えた割合が65.7%となっているのに対し、自分のことが「好きではない」と答えた高校生では19.7%で46.0ポイント低くなっています。

自分のことが「好き」と答えた子どもで、新しいことにチャレンジすることが「好き」と答えた割合は、小学生、中学生、高校生ともにほぼ同率となっていますが、自分のことが「好きではない」と答えた子どもで、新しいことにチャレンジすることが「好き」と答えた割合は、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低くなっています。

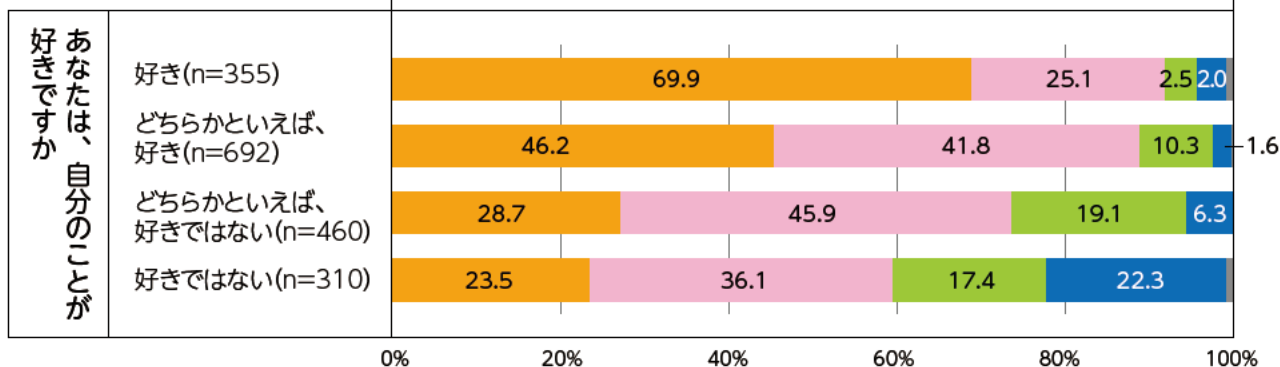
■ 図 2-5 「自分のことが好き」と「新しいことにチャレンジすること」の関係



## 中学2年生

### 新しいことにチャレンジすることは好きですか

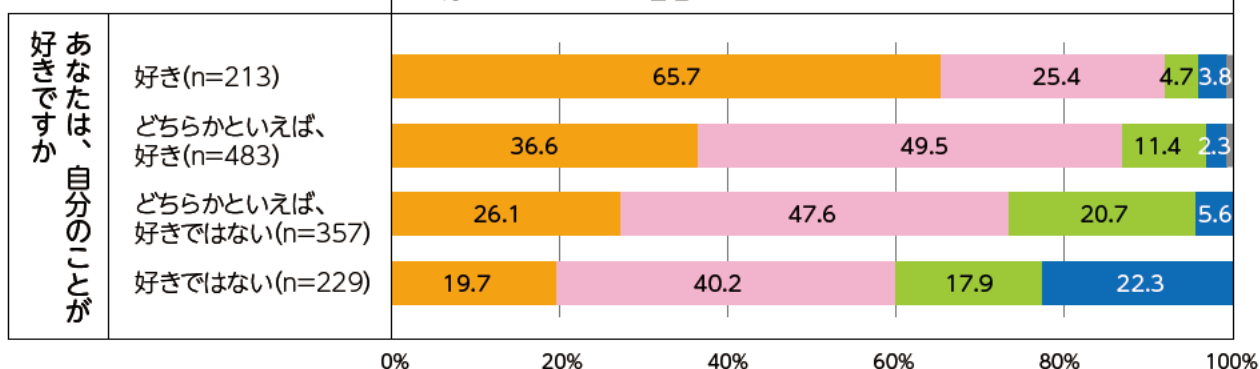
■ 好き
 ■ どちらかといえば、好き
 ■ どちらかといえば、好きではない
 ■ 好きではない
 ■ 無回答



## 高校2年生

### 新しいことにチャレンジすることは好きですか

■ 好き
 ■ どちらかといえば、好き
 ■ どちらかといえば、好きではない
 ■ 好きではない
 ■ 無回答



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

## ●子どもにかかる市町の取組を紹介します

### 〈東員町〉

#### 3感を育む継続した保育・教育を実施

この世に受け入れられているという「**基本的信頼感**」や自分は大切な存在だという「**自己肯定感**」、自分には得意なことがあるという「**自己有能感**」。この「3感」を大切に、**「マイナス1歳」**から15歳までの16年間、一貫して子どもたちの保育・教育に取り組んでいます。

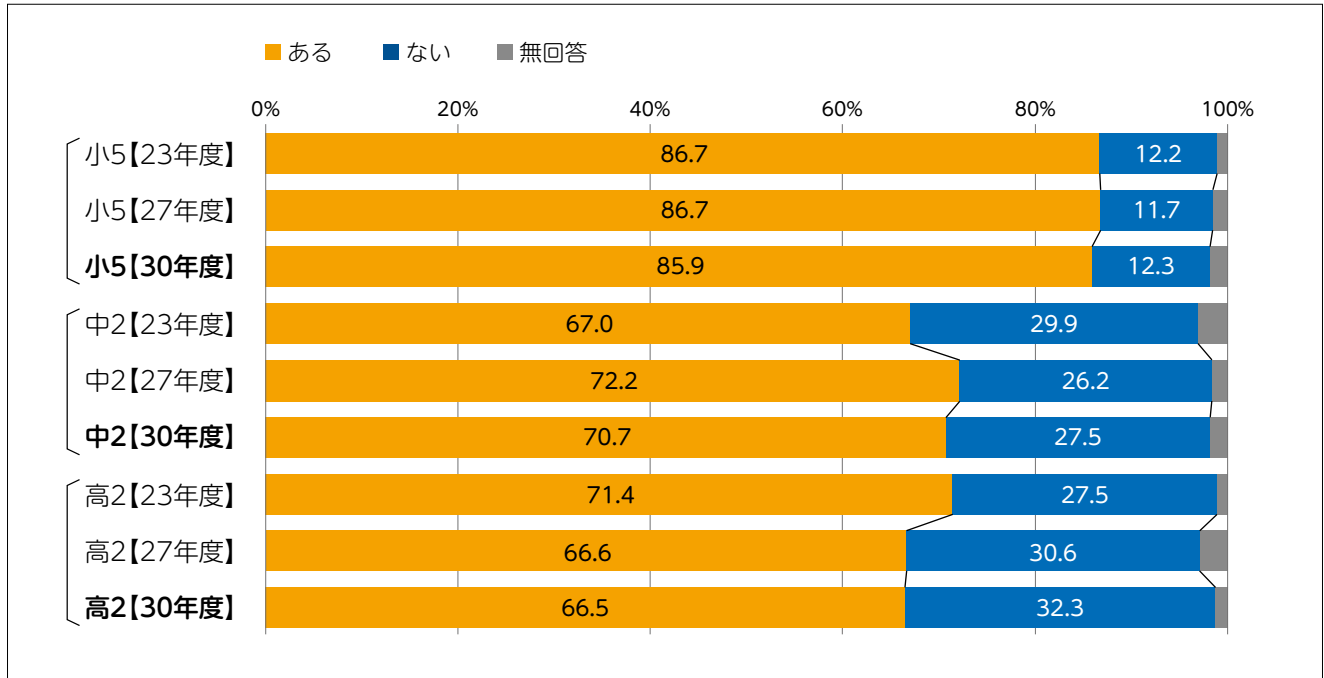


幼稚園・保育園では共通のカリキュラムで学ぶほか、保育者や保護者による絵本の読み聞かせを通じて、3感を育む取組を行っています。また、人間のすばらしさや新しい知識と出会う、地域や国のことを知り愛する、感性を育み、思考力やコミュニケーション力を高めることなどを目的に、0歳時から中学校までを通してブックリストに上がった301冊の本を読破する「**読書登山**」(チャレンジ301冊)などに取り組んでいます。

●中学生、高校生の約3割は夢や将来の希望がない。

夢や将来の希望の有無について、「ある」と答えた小学生は85.9%、中学生は70.7%、高校生は66.5%となっています。平成23年度と比較すると、「ない」と答えた高校生はやや増えています。

■ 図 2-6 あなたには、夢や将来の希望がありますか



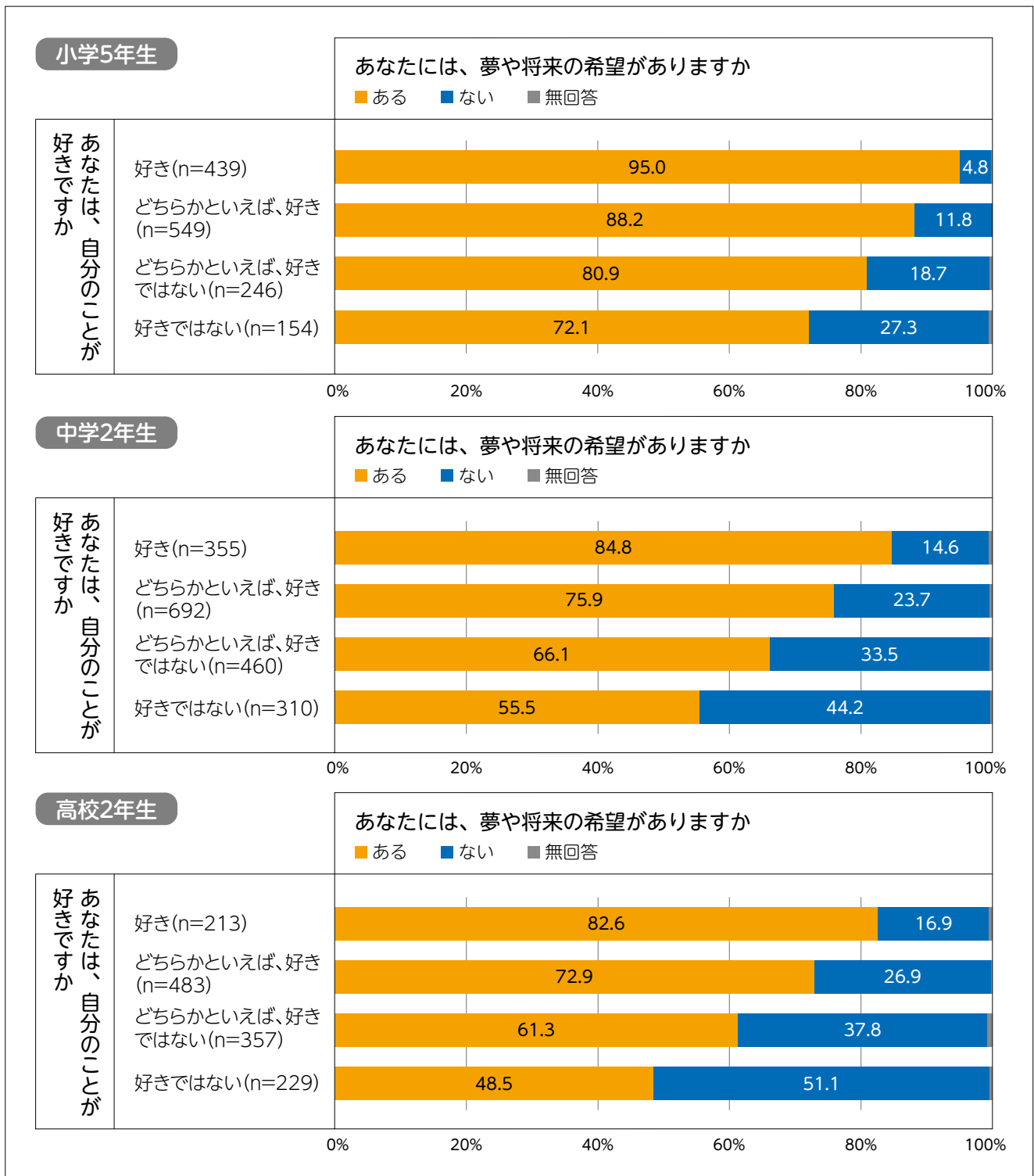
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●自分のことが好きな子どもは、好きではない子どもより夢や将来の希望がある割合が高い。

「自分のことが好き」と「夢や将来の希望の有無」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに自分のことが「好き」と答えた子どもは「好きではない」と答えた子どもより、夢や将来の希望が「ある」と答えた割合が高くなっています。

自分のことが「好き」と答えた子どもと「好きではない」と答えた子どもで、夢や将来の希望が「ある」と答えた割合をみると、小学生は、「好き」と答えた子どもは「好きではない」と答えた子どもより22.9ポイント高くなっています。同様に、中学生は29.3ポイント、高校生は34.1ポイント高くなっており、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、その差が拡大しています。

■ 図2-7 「自分のことが好き」と「夢や将来の希望の有無」の関係



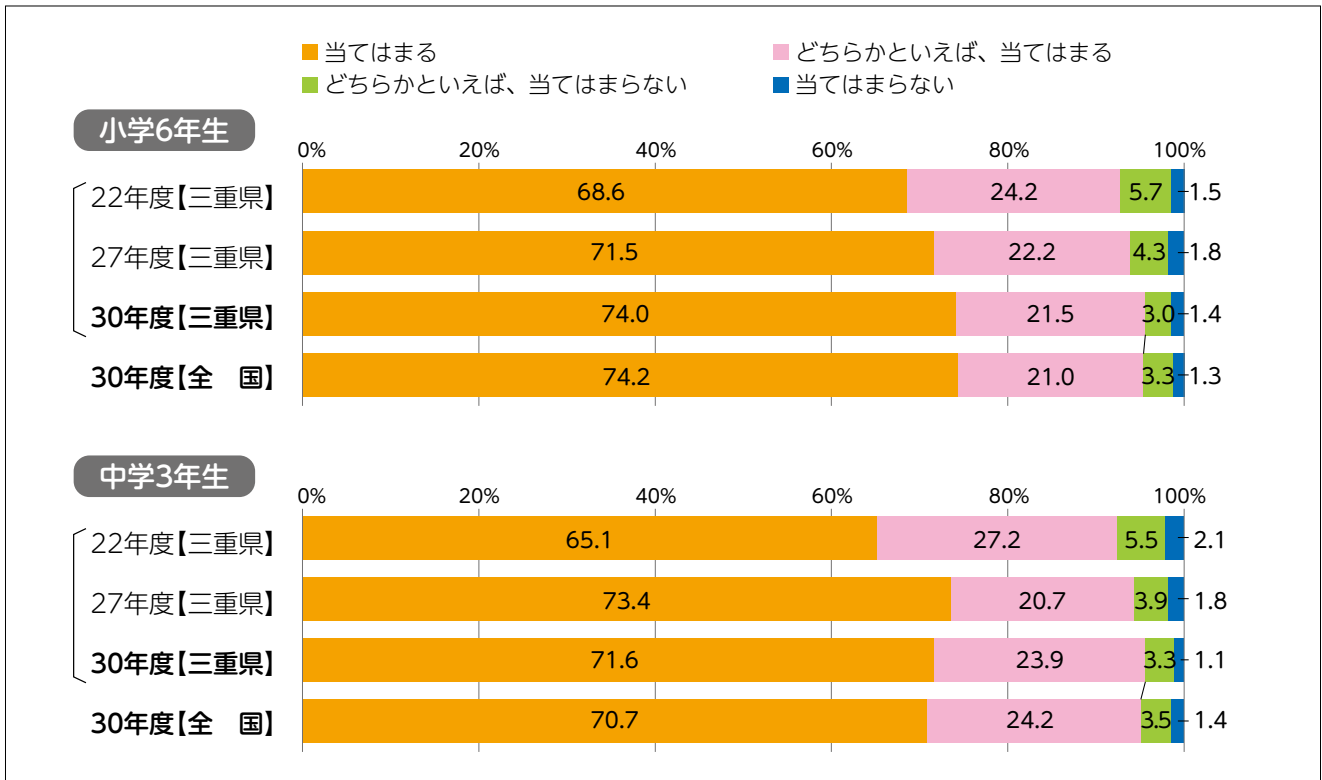
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

## 2 子どもの規範意識

### ●人の役に立つ人間になりたいと思っている子どもは9割以上。

人の役に立つ人間になりたいかについて、役に立つ人間になりたい、どちらかといえば役に立つ人間になりたいと答えた小学生は95.5%、中学生も95.5%と全国とほぼ同じ状況です。

■ 図 2-8 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

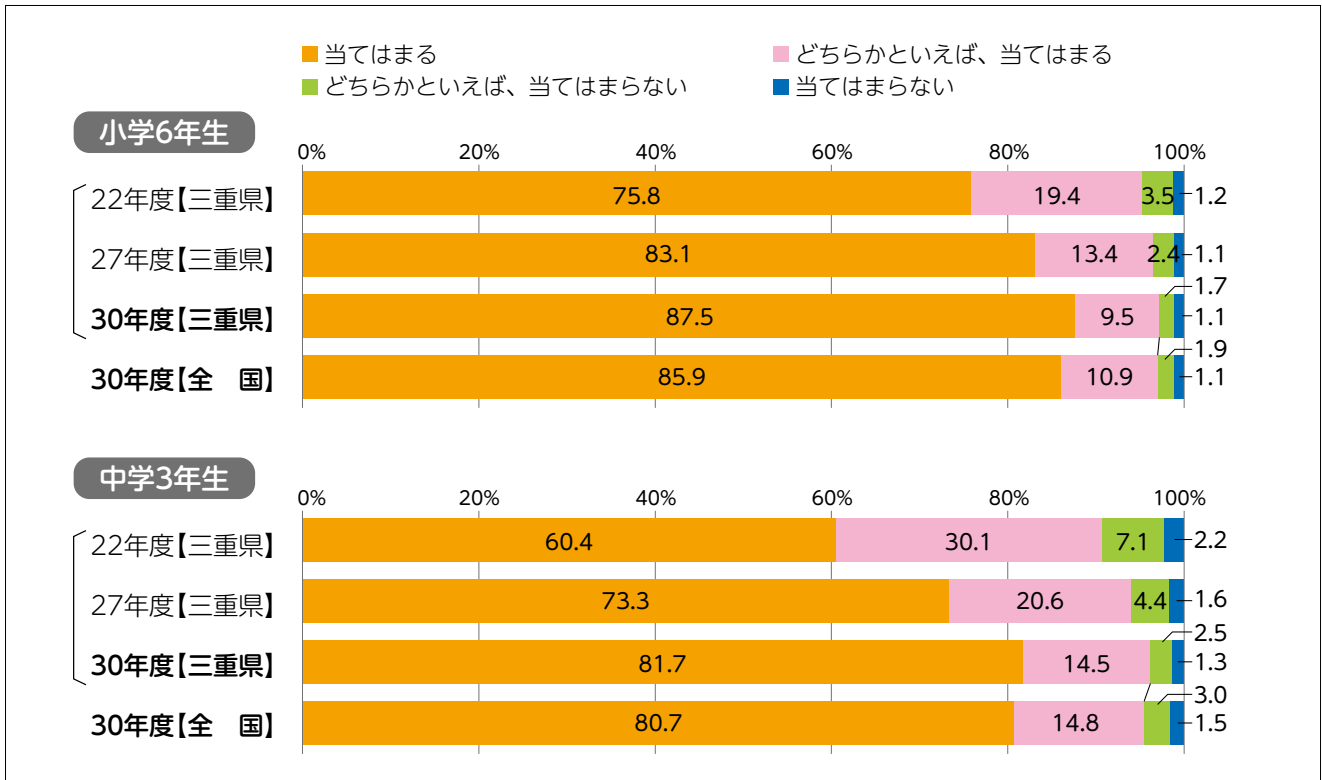


●いじめがいけないことだと思っている子どもは9割以上。

いじめがいけないことだと思っているかについて、いけないことだと思う、どちらかといえばいけないことだと思うと答えた小学生は97.0%、中学生は96.2%と全国とほぼ同じ状況です。

平成22年度と比較すると、いけないことだと思うと答えた小学生は11.7ポイント、中学生は21.3ポイント上昇しています。

■ 図 2-9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



資料：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

### 3 子どもの悩みと相談相手

●つらい気持ちになるときについて、小学生は「友だちと仲良くできないとき」、中学生、高校生は「テストの点や成績が悪いとき」が最も高い。

つらい気持ちになるときについて、小学生は「友だちと仲良くできないとき」が58.1%と最も高く、次いで「テストの点や成績が悪いとき」が52.0%、「家の人と仲良くできないとき」が38.2%となっています。中学生は「テストの点や成績が悪いとき」が68.0%と最も高く、次いで「友だちと仲良くできないとき」が59.4%、「授業がよくわからないとき」が33.2%となっています。高校生は「テストの点や成績が悪いとき」が60.1%と最も高く、次いで「友だちと仲良くできないとき」が58.0%、「受験や進路のことですましくないとき」が36.3%となっています。

■ 図 2-10 あなたがつらい気持ちになるのはどんなときですか（複数回答・いくつでも）

	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
	23年度	27年度	30年度	23年度	27年度	30年度	23年度	27年度	30年度
家の人と仲良くできないとき	③39.3	28.4	③38.2	28.4	③25.7	30.9	31.9	19.4	27.3
友だちと仲良くできないとき	①64.8	①49.7	①58.1	②62.9	②57.2	②59.4	①61.4	②52.9	②58.0
授業がよくわからないとき	34.5	23.5	34.7	③34.4	24.5	③33.2	27.1	18.7	33.6
テストの点や成績が悪いとき	②55.5	②45.6	②52.0	①65.9	①66.8	①68.0	②50.2	①54.3	①60.1
受験や進路のことですましくないとき	11.3	10.0	14.4	27.6	18.8	20.0	③40.7	③29.1	③36.3
自分の意見を聞いてもらえないとき	32.1	27.4	31.9	22.8	24.7	25.8	28.1	20.8	22.6
クラブ活動（部活動）の練習などが厳しいとき	13.3	10.4	13.5	27.2	24.1	30.7	19.4	21.3	25.7
自分の容姿（外見）のことで悩むとき ※1	—	—	15.4	—	—	23.9	—	—	29.0
いじめられたとき ※2	—	③34.6	36.6	—	21.5	22.4	—	12.9	15.5
その他	8.2	5.0	5.8	2.8	5.0	5.3	6.3	6.1	4.5
つらい気持ちになったことはない	4.0	6.5	7.5	2.9	5.9	5.0	3.4	4.3	4.2
無回答	2.8	1.5	0.8	2.6	1.1	0.9	3.6	2.9	1.1

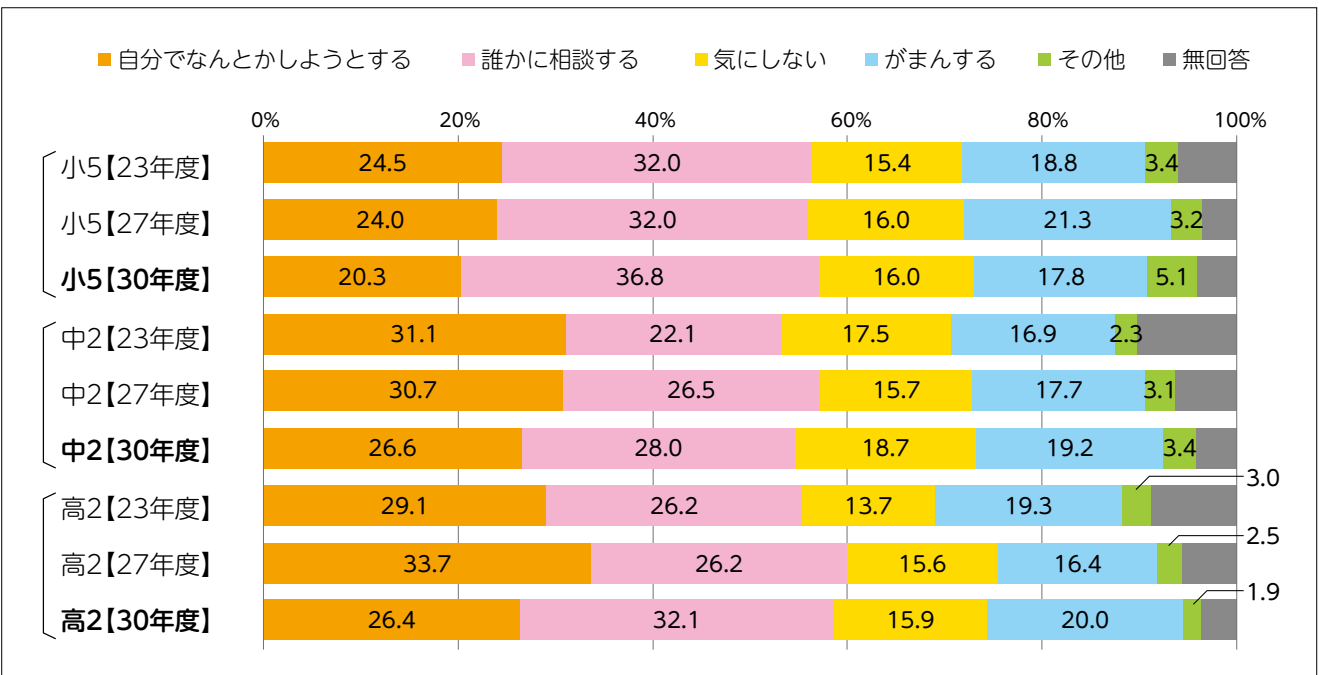
※1 23年度、27年度にこの調査項目はありません ※2 23年度にこの調査項目はありません  
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」〔〇番号は割合の多い順を表しています。〕

●**つらい気持ちになったときの対応について「誰かに相談する」が最も高い。**

つらい気持ちになったときの対応について、小学生、中学生、高校生ともに「誰かに相談する」が最も高くなっています。

中学生、高校生では、平成23年度、平成27年度において「自分でなんとかしようとする」が最も高くなっていましたが、平成30年度は「誰かに相談する」の割合が高くなっています。また、小学生は平成23年度、平成27年度と比較すると、「誰かに相談する」の割合が増加する一方、「自分でなんとかしようとする」の割合が減少しています。

■ **図 2-11 つらい気持ちになったときに、あなたはどうしますか**



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

**悩みを抱える子どもや子育て中の保護者を支援する取組を行っているNPOの方に聞きました**

●**子どもたちがつらい気持ちになるときについて(P. 26、40参照)**

今回の調査結果では、中学生や高校生がつらい気持ちになるときについて、テストの点や成績が悪いときが最も高くなっています。しかし、ふだん「こどもほっとダイヤル」などで子どもの声を聴いていると、子どもたちは成績が悪いことより、成績が悪いことによる親や周囲との関係に悩んでいると感じることが多いです。

保護者を対象とした子どもに関する不安や悩みに関する設問では、子どもの成績や進学との回答が最も高くなっていることから、保護者の子どもに対する成績や進学についての期待を感じるものとなっています。そのことを子どもが感じとっているため、成績が悪いときにつらい気持ちになるとの回答が多かったのではないかと推測します。

(NPO法人 三重県子どもNPOサポートセンター)

●相談相手について小学生は「親（保護者）」、中学生、高校生は「友だち」が最も高い。

困ったことや悩みがあったとき、誰に相談するか、あるいはしようと思うかについて、小学生は「親（保護者）」が70.4%と最も高く、次いで「友だち」が53.7%、「学校の先生」が24.1%となっています。中学生は「友だち」が68.6%と最も高く、次いで「親（保護者）」が57.9%、「学校の先生」が21.6%となっています。高校生は「友だち」が74.0%と最も高く、次いで「親（保護者）」が55.7%、「兄弟姉妹」が17.6%となっています。

■ 図 2-12 あなたは、困ったことや悩みがあったとき、誰に相談しますか、あるいはしようと思いませんか（複数回答・いくつでも）

	小学5年生			中学2年生			高校2年生		
	23年度	27年度	30年度	23年度	27年度	30年度	23年度	27年度	30年度
親（保護者）	①70.8	①71.7	①70.4	②55.8	②52.5	②57.9	②50.2	②48.7	②55.7
兄弟姉妹	③22.9	③21.1	22.9	③18.7	15.9	16.8	③20.0	15.5	③17.6
おじいさん、おばあさん	18.3	13.9	16.4	6.6	7.4	9.0	4.9	3.6	4.2
親せき ※1	—	3.6	6.2	—	3.0	3.6	—	1.1	2.1
友だち	②58.9	②46.1	②53.7	①67.0	①64.9	①68.6	①70.2	①70.9	①74.0
学校の先生	19.1	③21.1	③24.1	12.7	16.4	③21.6	12.7	9.3	12.3
児童福祉施設の先生・スタッフ	0.1	0.6	1.7	0.4	0.5	0.4	0.3	0.0	0.2
フリースクールのスタッフ	0.0	0.2	0.4	0.2	0.4	0.3	0.4	0.0	0.4
塾や習い事の先生、スポーツクラブのコーチ	4.7	4.3	3.6	4.6	4.8	5.1	2.9	1.3	3.4
近所の知り合いの人	1.0	1.9	2.0	0.7	1.2	0.5	1.1	0.5	0.2
専門の相談機関（病院や児童相談所など）	0.8	0.6	1.1	0.6	0.7	0.5	0.6	0.6	0.6
電話やメールでの相談 ※2	—	—	2.7	—	—	3.7	—	—	1.8
インターネット（掲示板など）での相談	1.6	0.6	1.1	3.8	3.4	3.0	4.7	3.2	2.9
学童保育や児童館のスタッフ ※3	0.3	0.6	—	0.4	—	—	0.3	—	—
電話での相談 ※4	0.7	1.2	—	1.0	0.9	—	1.0	1.0	—
その他	1.9	1.5	1.8	1.5	1.4	1.7	3.2	1.6	1.4
誰にも相談しない	11.9	13.7	11.1	11.8	③19.3	12.9	10.6	③17.0	11.0
無回答	1.5	1.1	0.8	2.2	0.9	0.7	2.2	1.9	0.2

※1 23年度にこの調査項目はありません ※2 23年度、27年度にこの調査項目はありません

※3 30年度、ならびに27年度の中学2年生と高校2年生にこの調査項目はありません ※4 30年度にこの調査項目はありません

資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」【○番号は割合の多い順を表しています。】

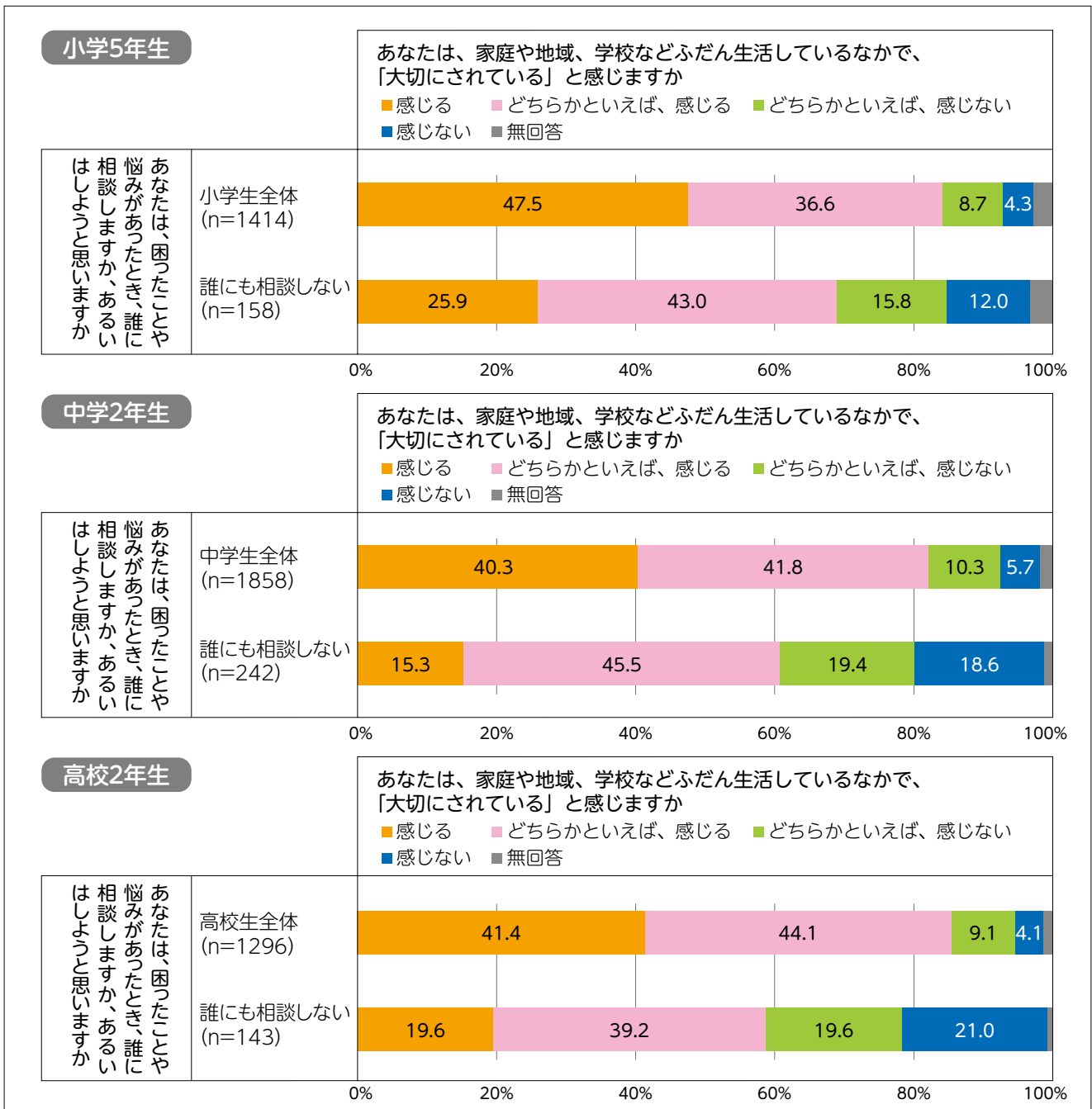
● **悩みがあったとき、「誰にも相談しない」子どものほうが、家庭や地域、学校などふだん生活しているなかで、大切にされていると感じる割合が、子ども全体より低い。**

「悩みがあったときの相談相手の有無」と「ふだんの生活のなかで、大切にされていると感じる」の関係について、悩みがあったときに「誰にも相談しない」と答えた子どもは、小学生、中学生、高校生のすべてで、全体より家庭や地域、学校などふだん生活しているなかで、大切にされていると感じる「どちらかといえば、感じる」と答えた割合が低くなっています。

また、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、「誰にも相談しない」と答えた子どもと子ども全体の大切にされていると感じる「どちらかといえば、感じる」と答えた割合の差は広がっています。

以下の図における「誰にも相談しない」は、設問「あなたは、困ったことや悩みがあったとき、誰に相談しますか、あるいはしようと思いませんか」の選択肢のうち、「誰にも相談しない」と回答した人を表しています。「小学生全体」は、同設問について、「誰にも相談しない」と回答した人を含めた全回答者を表しています。中学生、高校生に同じ。

■ **図 2-13 「悩みがあったときの相談相手の有無」と「ふだんの生活のなかで、大切にされていると感じる」の関係**



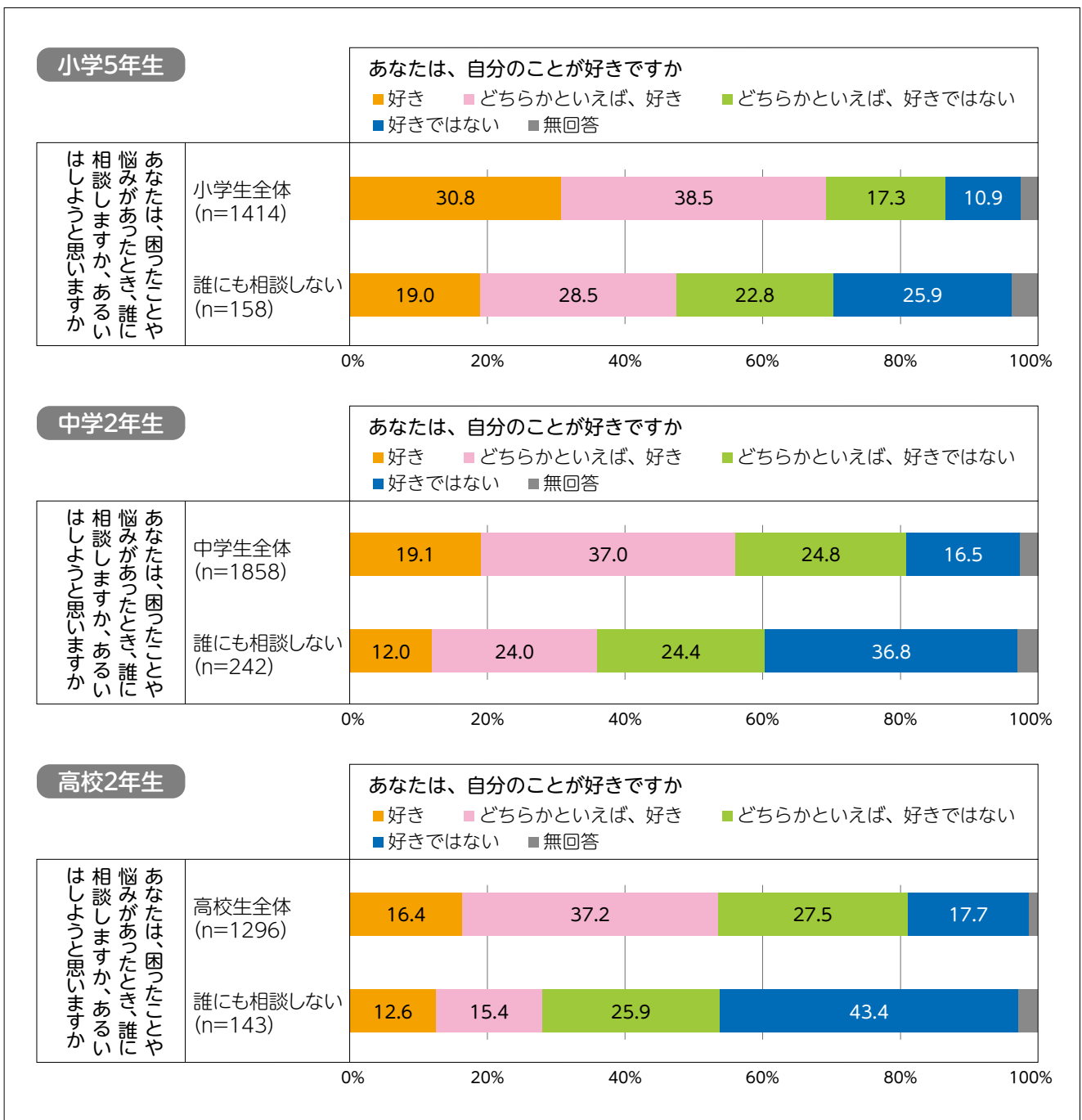
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

● 悩みがあったとき、「誰にも相談しない」子どものほうが、自分のことが「好き」な割合が、子ども全体より低い。

「悩みがあったときの相談相手の有無」と「自分のことが好き」の関係について、悩みがあったときに「誰にも相談しない」と答えた子どもは、小学生、中学生、高校生のすべてで、自分のことが「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた割合が20ポイント以上低くなっています。

以下の図における「誰にも相談しない」は、設問「あなたは、困ったことや悩みがあったとき、誰に相談しますか、あるいはしようと思いませんか」の選択肢のうち、「誰にも相談しない」と回答した人を表しています。「小学生全体」は、同設問について、「誰にも相談しない」と回答した人を含めた全回答者を表しています。中学生、高校生に同じ。

■ 図2-14 「悩みがあったときの相談相手の有無」と「自分のことが好き」の関係



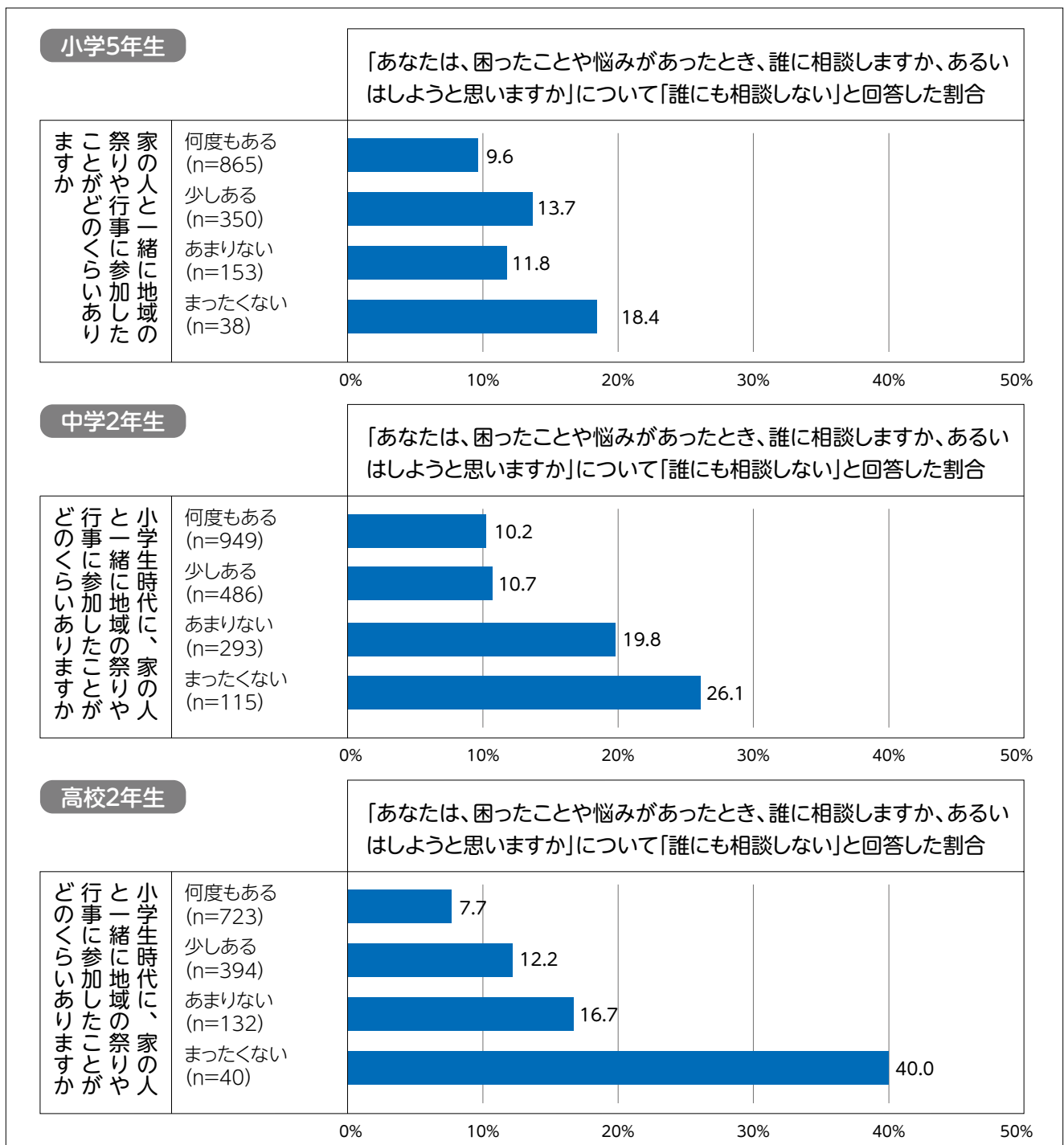
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●小さいころに家の人と一緒に地域の行事に何度も参加したことがある子どもより、まったくない子どものほうが、悩みがあったとき「誰にも相談しない」割合が高い。

「小学生時代に、家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと」と「悩みがあったときの相談相手の有無」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、小学生時代に、家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したことが「まったくない」と答えた子どもは、「何度もある」と答えた子どもより悩みがあったとき「誰にも相談しない」と回答する割合が高くなっています。

また、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したことが「何度もある」と答えた子どもと「まったくない」と答えた子どもの「誰にも相談しない」と答えた割合の差は広がっています。

■ 図 2-15 「小学生時代に、家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したこと」と「悩みがあったときの相談相手の有無」の関係



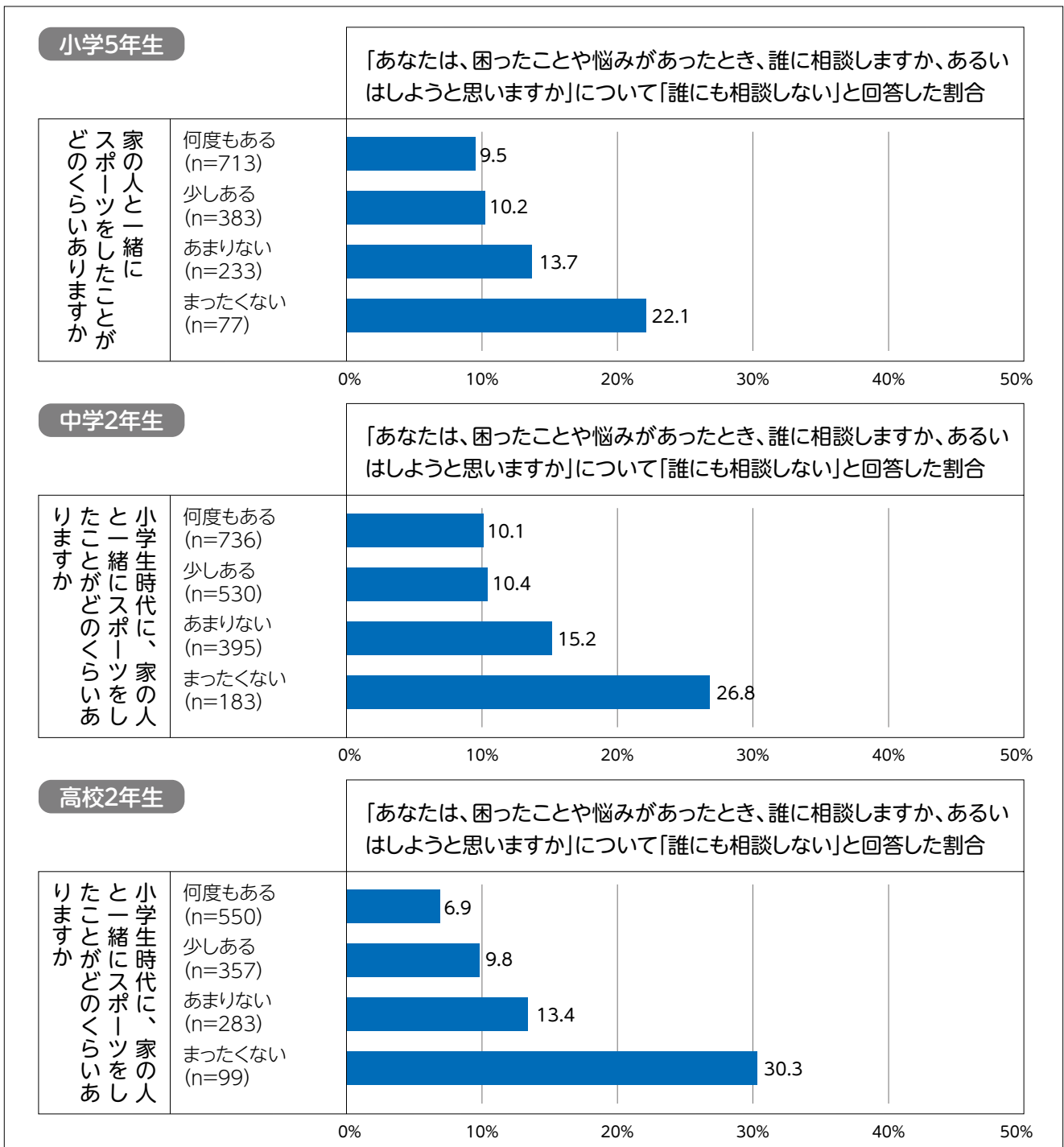
資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」

●小さいころに家の人と一緒にスポーツをしたことが何度もある子どもより、まったくない子どものほうが、悩みがあったとき「誰にも相談しない」割合が高い。

「小学生時代に、家の人と一緒にスポーツをしたこと」と「悩みがあったときの相談相手の有無」の関係について、小学生、中学生、高校生ともに、小学生時代に、家の人と一緒にスポーツをしたことが「まったくない」と答えた子どもは、「何度もある」と答えた子どもより悩みがあったとき「誰にも相談しない」と回答する割合が高くなっています。

また、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて、家の人と一緒にスポーツをしたことが「何度もある」と答えた子どもと「まったくない」と答えた子どもの「誰にも相談しない」と答えた割合の差は広がっています。

■ 図 2-16 「小学生時代に、家の人と一緒にスポーツをしたこと」と「悩みがあったときの相談相手の有無」の関係



資料：「三重県子ども条例に基づく調査・子ども調査」